

貧酸素水塊速報 (2023年)

【発行】 ○ 千葉県水産総合研究センター
 神奈川県水産技術センター
 千葉県農林水産技術会議
 内湾底びき網研究会連合会

【協力】 千葉県環境研究センター
 第三管区海上保安本部
 ○ 東京都環境局
 (国)国立環境研究所
 ○ モニタリングポスト(海上保安庁, 国土交通省 関東地方整備局)

(今回の速報は“○”の機関の観測データを使用して作成しました)

令和5年8月1日観測結果

貧酸素水塊は内湾の広い範囲に分布し、DO0.5 ml/L以下の無酸素に近い海域が拡大していました。湾奥では7月23日から続く南風の影響で、表層水が流れ込み、底層DOが上昇しています(図1)。

縦断ラインでの規模は、32%に上昇し、今期最大かつ直近10年平均の最大規模に達しています(図2,3)。

表層水温25~30℃、底層水温18℃~28℃、表底差は最大10℃でした。

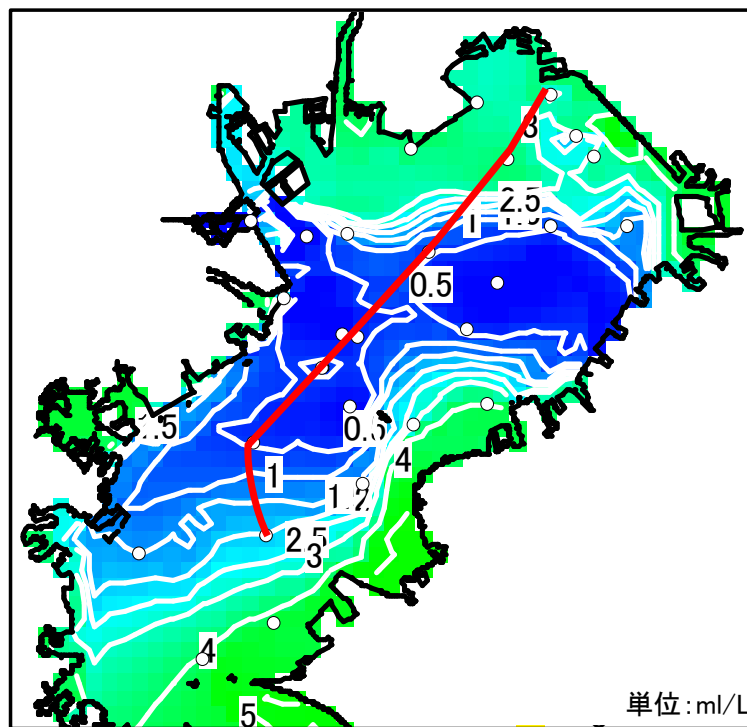


図1 底層の溶存酸素量分布(赤線は縦断ライン)

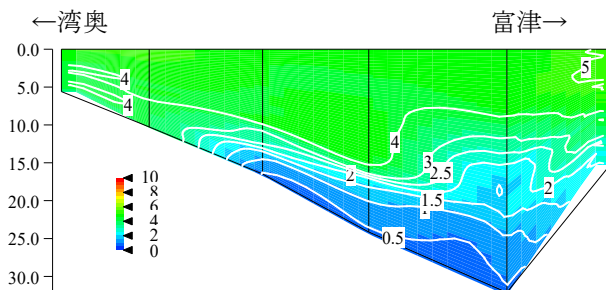


図2 縦断ラインでのDO鉛直分布

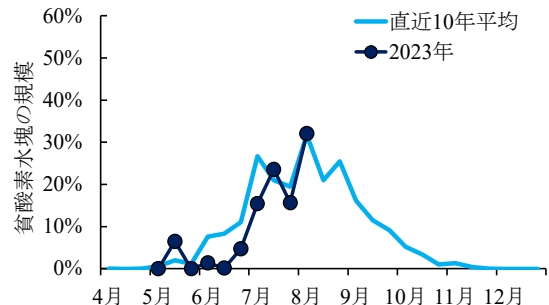


図3 貧酸素水塊の規模
(左図で貧酸素水塊(2.5ml/L以下)が占める割合)

酸素飽和度と溶存酸素量(DO)の目安

酸素飽和度	溶存酸素量	備考
50%	2.5mL/L	貧酸素水塊
30~40%	2.0mL/L	魚類に影響
	1.5mL/L	貝類危険
	1.0mL/L	